

三畏閣 (九州大学箱崎キャンパス第三学生集会所) の歴史文化的価値



三畏閣の評価

「三畏閣」(後の正式名称:第三学生集会所)の名で、学生、教職員に長年親しまれてきた純和風の集会施設。入母屋造、妻入、棧瓦葺の木造2階建には、上下あわせて7~8室、床の間と縁側の付いた和室があります。「昔は学生も教師もドンチャン騒ぎして庭の池に飛び込んだりしていた」と、3代目管理人を務めた吉岡鈴子さんの言葉のとおり、クラブ活動や宴席などで長く利用され、学部学科を越え学生と教師の交流の場として、共通記憶を喚起させる施設として価値の高いものです。また九大茶道部が発足する際、当時の学長と裏千家の家元がここで茶を一席設けたという話もあり、歴史的建造物の少ない福岡市内でも有数の古い茶室と考えられます。広い座敷に3間(1.8m×3)に及ぶ長押は見事で、柱時計など一部調度品にも産業遺産としての価値を認めることができます。「三畏」の名前の由来は、孔子の言葉「君子に三畏有り。天命を畏れ、大人を畏れ、聖人の言を畏る。」から当時の大学総長により名付けられました。参考:「平成24年度九州大学箱崎キャンパスにおける近代建築物の調査」

文化財としての特徴



和風庭園を挟んで書院の向こうには三方を縁側で囲まれた特別集会室があり、炉が切られ、茶室となっています。



入口に掲げられた「三畏閣」の扁額。

<構造強度に対する評価>

後70年近くを経て痛んだ箇所も少なくないが、補修の容易なことが木造建築の特徴であり、保守に配慮を欠かなければまだ十分に利用可能である。耐震性、耐久性は不明であるが、外観から劣化は見られない。木造であるため、耐火性能はない。(平成17年)

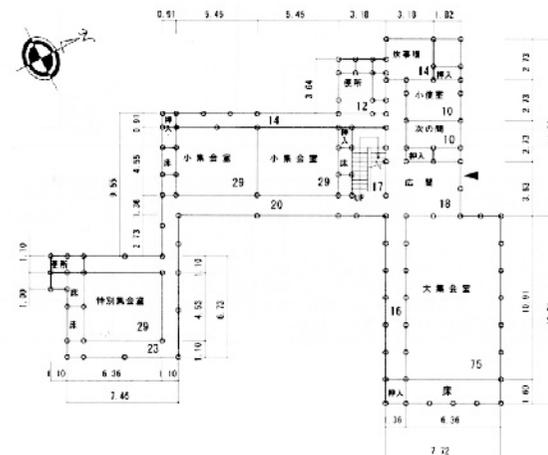
<構造規模> 木造、階数2
<延べ面積> 453㎡(138坪)
<敷地面積> 395坪
<竣工年> 1937年



出窓付きの大集会室。折上げ格天井を備えた本格的な書院。3間に及ぶ長押は見事であります。



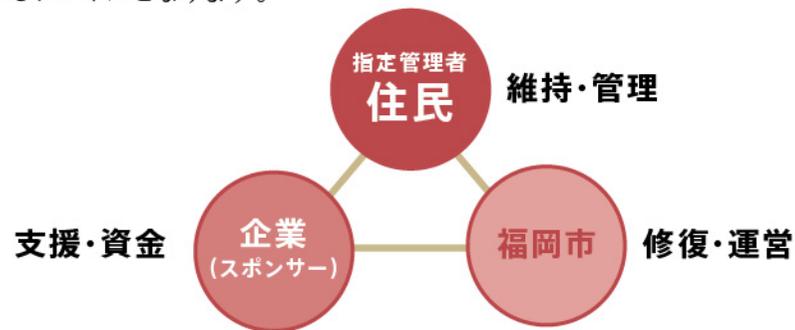
完成当時の三畏閣。



三畏閣の利活用イメージ

①住民管理の地域コミュニティ施設、文化サロン

地場企業によるスポンサー支援、あるいは市民からの寄付を募り、福岡市へ寄贈します。市は文化財として資産管理をしながら、維持管理・運営は地域と協力して行います。大学としては、OB・OGのサロンとしても活用を視野に入れ、産学官民一体となった大学町としての地域コミュニティ意識の継続と強化へつなげるシンボルとなります。



②文化財、観光資源

三畏閣は、昭和初期の純和風伝統木造建築としての佇まいを現在に伝えていきます。空襲により中心部を焼かれた福岡には、戦前の記憶を残す建物が少なく、文化財としての価値を秘めています。歴史的な観光スポットが少ない福岡市にとって、年々増える外国人観光客へ向けたインバウンド需要に応える観光資源となります。また、2階部分は、ゲストハウスとしての運営も考えられます。



年々増える外国人観光客



三畏閣
純和風建築として
重要文化財クラス?!



伝統的な
観光地の不足

③福岡で5つ目、2番目に古い茶室、伝統文化の場

福岡市に茶室をそなえた文化施設は、市の所有が3つ、県の所有が1つと150万都市としては少ない。(伝統的な茶室は友泉亭、松風園のみ。)いずれも中央区、博多区などの中心部に集中しており、人口の最も多い東区には1つありません。三畏閣は、最初の状態を保つ茶室としては2番目に古く、当時の裏千家の家元と大学総長が共に茶席を設ける等、史実も残っています。茶道を中心に華道や落語など、日本の伝統文化を体験する場として活用できます。



笑福亭瓶二の落語会(2014年)



※楽水園は、庭園は明治期のものが整備されているが茶室は新しいものであるため整備年で比較。
※松風園は、昭和初期頃建設された「松風庵」をもとに敷地全体を改修しており、当時の偉功は一部であることから整備年で比較。

④スポンサー企業の研修施設、ゲストハウス

三畏閣を利活用するために出資したスポンサー企業にとっては、研修施設としての利用も考えられます。日本の伝統文化、おもてなし、礼節、しつらい、などの学びの場を提供できます。グローバル化が加速する社会環境の中にあっては、自国の文化を語ることが強みの一つとなります。ゲストハウスとして利用すれば、日本文化を通じた国際交流も可能です。



研修施設



文化体験



ゲストハウス